

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：森と暮らしを繋ぐ持続可能なデザイン ILAS Seminar :Sustainable design for connecting life with forest			担当者所属 職名・氏名	フィールド科学教育研究センター 教授 徳地 直子 フィールド科学教育研究センター 特定助教 張 曼青		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	15 (15) 人	配当学年	1 回生	対象学生	全学向
曜時限	木5	教室	農学研究科本棟N283 (北部構内)			使用言語	日本語
キーワード	森里海連環学 / レジリエンス / 中山間地 / well-being						
[授業の概要・目的]							
里山は人が入りやすい自然でもあり、さまざまな文化や生活の工夫が重ねられた場所です。また、このような人の利用により里山には多様な生息場所が提供され生物多様性が高いとされていますが、人の利用が減少した現在、それらが失われつつあることが指摘されています。このセミナーでは木材を調達するところからスタートし、製材加工・製造、デザイン、マーケティングといった、木材が森から伐採されて製品となって私たちの手に届くまでのプロセスを学ぶことができます。地域で森の価値を捉え直す活動が続ける株式会社飛騨の森でクマは踊る（ヒダクマ）やモノづくりに携わる職人さんに協力していただき、最先端のデジタルファブリケーションを活用したモノづくりを行っていきます。消費者や研究者ではなく実践者の立場から、地域や産業の様々な課題と向き合い、解決方法を模索していきます。自然や林業に興味がある人やデザインや建築に興味がある人等、理系・文系問わず参加してください。							
[到達目標]							
森里海、さらには人と自然が連環することの意義について理解する。 地域の自然資源、文化的資源などの情報を収集、整理し、利活用から持続可能性を考えられるようになる。							
[授業計画と内容]							
講義予定 各課題についてそれぞれ1から2回を予定している。また、週末もしくは夏季休暇を利用して上賀茂試験地でのフィールド実習を行う。日程は受講者と相談の上決定する。授業回数は講義・実習・フィードバックを含め全15回とする。 持続可能な社会への動き 森林生態系の持続可能性と里山 上賀茂試験地での里山実習（1日程度） 広葉樹を用いた地域産業 大勢で使用する木製品のデザインとその制作（10回程度）							
[履修要件]							
同時に開講している森里海連環学系科目「森里海連環学I」ならびに「森里海連環学II」を受講することが望ましい。							
----- ILASセミナー：森と暮らしを繋ぐ持続可能なデザイン(2)へ続く↓↓↓ -----							

ILASセミナー：森と暮らしを繋ぐ持続可能なデザイン(2)

[成績評価の方法・観点]

各回でのディスカッションへの参加（50点）、レポート（50点）などから総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

森林立地学会『森のバランス』（東海大学出版会）

山下 洋 編『森里海連環学』（京都大学学術出版会）

（関連URL）

<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/>(フィールド科学教育研究センターHP)

<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/kamigamo/>(上賀茂試験地HP)

[授業外学修（予習・復習）等]

フィールドセンターのHPなどを通じて、森林に関する情報を得ておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

学生教育研究災害傷害保険に各自必ず加入しておくこと。

実習開催時期により、成績の登録が前期に間に合わない場合があります。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

上賀茂試験地での実習の交通費（1000円程度）が必要です。